

日本アメリカ史学会編集委員会よりお知らせ

『アメリカ史研究』への自由投稿原稿の募集

1. 投稿資格

日本アメリカ史学会の会員

2. 制限枚数

論文： 1 ページ 43 字×38 行で 17 ページまで（厳守） 注・図表を含む

研究ノート、研究動向、調査報告等： 1 ページ 43 字×38 行で 9 ページまで（厳守） 注・図表を含む
（英数字は 2 文字で、かな 1 文字と数える。）

3. 期限

投稿申し込みおよび原稿の要旨（800 字以内） 2006 年 11 月 15 日必着

完成原稿の提出 2007 年 1 月 15 日必着

4. 注意事項

①投稿申し込みの際に、投稿のジャンル（「論文」、「研究ノート」、「研究動向」、「調査報告」のいずれか）と
題目、要旨、投稿者の氏名、所属、連絡先住所、電話番号、Eメールアドレスを明記してください。申し
込みは下記アドレスにてメールでも受け付けます。投稿申し込みを受け付けた後、編集委員会から確認
のメールをお送りします。

郵送先： 〒186-8601 東京都国立市中 2-1 一橋大学歴史共同研究室気付

日本アメリカ史学会事務局

編集委員会Eメールアドレス： editors@jaah.jp

②完成原稿は、編集委員会と外部レフリーが審査し、その結果をすみやかに投稿者に通知します。原稿は横
書きとし、3部提出すること。

③完成原稿の提出についての詳細は、執筆要項を投稿申込者に送付しますので、それにしたがってください。

※なお、特集原稿の募集については、裏面をご覧ください。

『アメリカ史研究』への特集原稿の募集

『アメリカ史研究』第30号の特集原稿を、下記の要領にて募集致します。会員におかれましては振るってご投稿ください。

1. 投稿資格

日本アメリカ史学会の会員

2. 制限枚数

1 ページ 43 字×38 行で 17 ページまで（厳守） 注・図表を含む
（英数字は 2 文字で、かな 1 文字と数える。）

3. 期限

投稿申し込みおよび原稿の要旨（800 字以内） 2006 年 11 月 30 日必着
完成原稿の提出 2007 年 3 月 10 日必着

4. 注意事項

①投稿申し込みの際に、原稿の題目、要旨、投稿者の氏名、所属、連絡先住所、電話番号、Eメールアドレスを明記してください。申し込みは下記のアドレスにてメールでも受け付けます。投稿申し込みを受け付けた後、編集委員会から確認のメールをお送りします。

郵送先： 〒186-8601 東京都国立市中 2-1 一橋大学歴史共同研究室気付
日本アメリカ史学会事務局

編集委員会Eメールアドレス： editors@jaah.jp

②完成原稿は、編集委員会が審査し、その結果をすみやかに投稿者に通知します。原稿は横書きとし、3 部提出すること。

③完成原稿の提出についての詳細は、執筆要項を投稿申込者に送付しますので、それにしたがってください。

5. 特集のタイトルと趣旨

「トランスナショナル・ヒストリー再考：国境を越える歴史叙述の可能性と課題」

国境を越えるアメリカ史の問題設定、問題枠組みの再考は、2004 年に発足したアメリカ史学会が扱う時空の広がり直結する作業である。学会誌としての第一号（通号 28 号）は、「環大西洋世界の生成」を特集し、また、最近の例会においても「<国境>を問い直す」と題する二つのシンポジウムを企画し、北アメリカにおける国境画定・管理、「ボーダーランド」における先住民、米墨関係などについて議論を重ねてきた。いずれの論考も、国境画定の人為性、また、アメリカ合衆国一国に限定されない「アメリカ史」の射程を提示してきている。このように、アメリカ史学会において蓄積しつつある方法論の再検討・実証研究をさらに進めるべく、北米間（米加・米墨）、中南米、大西洋（アフリカ）にも視野を広げて議論を深めようというのが、本特集の意図である。

20 世紀初頭のオーストラリアやカナダにおける白人優越主義の始まりと、その 20 世紀半ばの終焉は、アメリカ合衆国における人種差別措置、移民差別政策と連動しながら行われた。このように、米、加、豪には、「移民」や「先住民」「黒人」問題について国境を越えた「運命共同体」の意識が存在し、移民政策が国境を越えて伝播したことを物語っている。また、現在、ヨーロッパ系移民に加えて、華僑、オキナワ人、ニッケイなどのアジアからの「人の移動」や「移住」については、社会学、人類学などの分野で南北アメリカ、太平洋、東南アジアにおける、ディアスポラの共同体やトランスナショナル・ネットワークについての研究が盛んであるが、歴史学においてもこうした人の移動とそれに伴う現象について、環太平洋史の文脈で捉え直す論考が期待される場所である。

ダーク・ホーダーが、大著 *Cultures in Contact* の中で明らかにしたように、人の移動と人の営為の連動・伝播が「国境」を越えることは歴史の常態である。一方で、アメリカ「国境」を越え、「ボーダーランド」に生きた人々の主体的営為を実証する作業は、アメリカ合衆国という枠の中で語られる歴史叙述を否定するものではない。とはいえ、日本アメリカ史学会として、アメリカ合衆国発のアメリカ史研究の「トランスナショナル化」、「国際化」の追従でもなく、反発でもない、新たな「アメリカ史像」を描くことは出来ないか。「アメリカ史」を俯瞰できうる見晴らし台に立って、「トランスナショナル・ヒストリー」を再考する新たな研究の地平をいかに拓くか。本特集が、「越境」を歴史の常態と捉えつつ、「アメリカ史」叙述の地平線と可能性をより広く、深く議論する契機になることを期待する。 以上